

【あたり前ではない水】

福岡県 北九州市立熊西中学校 二年 藤井 星成

小学校四年生の時に水について学習した。学習するまでは、水はあたり前のように毎日使え、たくさん使ってもなくなるならない、というより、水があることが普通なので、水の大切さ、蛇口から出る水をそのまま口にすることができるとは考えなかった。蛇口から出る水をそのまま口にすることができるとは考えなかった。蛇口をひねるとでてる水は、こんなに多くの工程でしっかりと管理されていると知った。だから安全な水を安心して飲んでいるとわかり嬉しかった。他の国の中には、蛇口から出てくる水をそのまま飲むと病気になる場合もあるそうだ。さらに、世界の半分ぐらいいは水不足で、国によっては、ものすごく汚い水を使っている。そこで、北九州市が他国に行って安心して使える水道水の作り方を教えている。このようなことも学習し、水について考えるようになった。限りのある、人々の思いや技術の詰まった水を大切にしよう。

しかし、学習直後は節水しようという気をつけていたが、実際に水不足になることもなく、いつしか水の無駄遣いはしないが、節水に気を付けるということもあまりしなくなっていた。そんな時、父の単身赴任先が、大雨による河川の氾濫し洪水になり、断水してしまった。父から水が使えないと連絡があり、とても心配になった。父は飲用の水と他の飲料水が少しあるだけだったので、急いでスーパーやコンビニに向かったそうだ。しかし、どこの店の棚は、すでにほとんどの物がなくなっており、いくつか回ってやっと水が買えた。聞いた。そして、お風呂に水をためていなかったの、体も洗えずトイレの水も流せない状態になってしまった。だから、給水車の情報を得て、自転車で向かったら、すでに自動車は大渋滞。なんとか近くまで行くと、自衛隊の給水車が来ていて水をくめるようになっていたが、水を入れるポリ容器の配布がすでに終わっていて、水をもらうことが出来なかったそうだ。だから

今度は、ポリ容器を買いに行ったが、それも売り切れていた。仕方がなく家に帰り、収納ケースを車に積み、給水しにいったが、それも売り切れていた。仕方がなくだ。父は、やっと、体を洗ったりトイレの水に使ったりと少しづつ大事に水を使い数日を過ごした。その後、父はこちらに一時帰宅することが出来たのでよかったが、他の人たちは一週間くらい断水が続いたので、本当に困っていたと父が話していた。洪水の様子や、断水の話、水を確保するまでの話を聞いて、私は恐ろしくなった。もし、自分の身に起こっていたら、これが自然災害による断水も困るが、水不足による使用制限が出た時は、など考えると、今の何も気にしていない生活は改めないといけないと思った。この出来事をきっかけに、日頃使っている水をあたり前と思わずもつと大切にしようと思った。そのため、手洗いの水やシャワーの水はこまめにとめる。お風呂は沸きなおしをしなくていいように前の人が終わったらすぐに入る。トイレを流す時は正しい水流を選ぶ。まずはこれから始めようと考えた。私のする節水は全体でみると微々たるものかもしれない。でもこれが、家族、友人と広がっていくことで、安全安心の水を社会全体で守っていくことにつながると思う。だから、これからも実践していこう。